

# ディアエーフェス!

越境するアートとフクシから考える、子どもと私の豊かな学びの場

シンポジウム / 展示と屋台 / 子どもといっしょにてつがくセッション



2018年9月22日(土) 13:00-17:30

主催: NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] 共催: 日本財団

ヒルサイドプラザ (代官山) 入場無料

東京都渋谷区猿楽町 29-10



# dear Me Festival!

Imagining better being through Arts and Wellbeing for Children

dear Me Festival! is a one-day event, intersecting between current discussions in art, well-being, and new learning platforms for children. The festival consists of three parts: Exhibition of artworks made by artists and children, and interviews of art and welfare professionals / Philosophy café for children and youth / Symposium inviting curators, artists, and innovative welfare experts. The event is organized by Arts Initiative Tokyo [AIT].

AITは、2016年より「dear Me」プロジェクトを開始し、アートの思考や表現を軸に、さまざまな環境にある子どもたちや若者、アーティスト、大人をつなぐプログラムを創出してきました。AITが開講する現代アートの学校MAD (Making Art Different=アートを変えよう、違った角度で見てみよう) や、国内外からのアーティストやキュレーターとの関係性から生まれたネットワークを活用し、子どもたちとアーティストをつなぐワークショップや作品制作、美術館訪問、学びの回路をつくってきました。そうした活動の紹介と、アートとフクシの議論を多様な人と深める目的として、子どもたち、そして未来の学びの場を想像する「dear Meフェス!」を開催します。

20世紀のアートの歴史を振り返ると、さまざまな人々と「より良く生きる」ための試みが、特にアーティストたちによる実験的な生活の場づくりや社会変革を通して実践されてきました。近年、美術館やアートスペースにおいても、多様な人々に向けた鑑賞プログラムや、福祉の視点を取り入れた展覧会も増えています。そうした中、現在において、アートと創造的なフクシの協働とはどのような意味を持つのでしょうか。また、そこからはどのような知識を生み出し、新たな経験を育むことできるのでしょうか。

当日は、アーティストと子どもが制作した作品やグッズ、実験的なフクシの場づくりに携わる人々へのインタビュー映像を紹介する「展示と屋台」のコーナー、子どもたちと身近な疑問について考察する「子どもといっしょにてつがくセッション」、アーティストや美術館のキュレーター、福祉の専門家を招いた「シンポジウム」を通して、アートと子ども、フクシの心地良い場を一緒に想像します。

## 越境するアートとフクシのシンポジウム

13:30-16:00 (定員:100名/要予約)

※右のURLかQRコードからご予約下さい。 <https://tinyurl.com/dearme922>



アートとフクシの考えを取り入れながら創造的な実践を行うキュレーターやアーティスト、ソーシャルワーカー、自立支援を行う専門家を招き、活動の紹介や協働の可能性、難しさ、意義を探ります。

### スピーカー

**今井朋** (アーツ前橋 学芸員)

群馬県のアーツ前橋にて、2016年に展覧会『表現の森 協働としてのアート』を企画し、前橋市内にある福祉施設や団体とアーティストが協働する5つのプログラムを紹介した。今後、同展は長期的なプロジェクトとして、アートが福祉や教育、医療の現場に入って行くことで、どのような化学変化が起こりうるのかを考察する。

**高田大志** (浦河ひがし町診療所副院長 / ソーシャルワーカー)

精神障がい等をかかえた当事者の地域活動拠点である社会福祉法人浦河べてるの家がある北海道浦河町にて、2014年に開院した精神科クリニック。院内では、アール・ブリュット展として作品展示を開催していたり、デイケアの活動に芸術文化活動を取入れており、特に音楽の時間で結成された即興演奏グループは、2017年札幌国際芸術祭でのライブ出演や町民芸術祭「うらフェス音楽祭」にも参加している。積極的に地域精神医療とアートの連携を取り入れている。

**高橋亜美** (アフターケア相談所ゆずりはは所長)

自立援助ホームのスタッフを経て、2011年よりアフターケア相談所ゆずりははの所長に就任。社会的養護のもとを巣立った人たちの、その後の人生をサポートする目的として、生活や就労、就学などの相談が行える場づくりを行う。同スペースにある「ゆずりは工房」では、武蔵野エリアの農家から野菜や果物を譲り受けてジャムを作り、瓶詰めなどの作業を通して、利用者の人々の就労支援に繋げている。

**土谷享** (美術家ユニット KOSUGE1-16)

土谷享と車田智志乃による美術家ユニット (2001年-)。アートが身近な場所で生活を豊かにしていく存在となることを目的に、参加型の作品を通して、参加者同士あ

るいは作品と参加者の間に「もちつもたれつ」という関係をつくりだす活動を行っている。2018年には、dear Meプロジェクトのワークショップとして、赤羽の児童養護施設にて、「どんどこ! 巨大紙相撲」を子どもたちと制作した。

モデレーター: **堀内奈穂子** (AIT)

## 展示と屋台のコーナー

13:00-17:30

これまでdear Meで実施したワークショップの記録やインタビュー映像、また、アーティストと子どものワークショップから生まれた作品やグッズなどを紹介します。また、屋台では、関連団体の活動を紹介します。

※一部のグッズの売上はdear Meプロジェクトにて今後の子どもたちへのアートを届ける活動に充てられます。

### [展示・記録映像]

参加アーティスト: 占部史人、KOSUGE1-16、田村友一郎、川村亘平斎とAFRA、エヴァ・マスターマン、ジャクソン・スブラグ、フィフス・シーズンと和田昌宏、大曾根朝美、N&R Foldings、會本久美子、伊藤史子、ひらのりょう (FOGHORN) 他

### [グッズ]

ピーター・マクナルド×ÅBÅKE、川村亘平斎と二葉むさしが丘学園の子どもたち、ひらのりょう (FOGHORN)、前田ひさえ、KOSUGE1-16、KIGI 他

## 子どもといっしょにてつがくセッション

(対象:小学生~中学生) 16:00-17:00 (定員:20名)

子どもたちや参加者が、身の回りの疑問を持ち寄りながら、哲学の考えを頼りに気軽に緩やかに話し合う場です。

「ともだちってなあに? どうして勉強しなくちゃいけないの? ふだんギモンに思わないことにハテナをつけて考えてみることを「てつがくする」といいます。日常のハテナを出しあって、頭をぐるぐるさせながら、いっしょに楽しく「てつがく」してみましょ!

### コーディネーター

**山森裕毅** (大阪大学COデザイン・センター特任講師)

哲学者・記号論研究者。都市の路上に愛着を感じながら、人や物事が移り変わっていく仕組みに関心を持つ。浦河べてるの家と結びつきのある「べてぶくる」にて定期的に哲学カフェを開催し、色々な背景を持つ人々が集い語り合う場づくりをしている。

本セッションでは、アーティスト大曾根朝美による、触れたり座ったりできる、ソフト・スカルプチャーを体験しながら語ります。

dear Meフェス!のもっと詳しい情報は、dear MeとAITのホームページをご覧ください。

### dear Me プロジェクトについて

NPO法人アーツイニシアティヴウキョウ [AIT/エイト] と日本財団による、子どもとアーティストが出会い、共に表現をする機会の創出や、アート/表現を通じた自由な学びと未知のものに出会う場づくりを通して社会を捉え直すプロジェクト。子どもの福祉施設のほか、さまざまな環境下にある子どもや若者、大人に向けた、対話型の鑑賞プログラムや国内外のアーティストによるワークショップを実施するほか、共に学ぶレクチャーやシンポジウム、イベントを企画。現代アートの多様な表現や対話をつづけて様々な価値観に触れ、世界のひろがりや他者とのつながりを発見するきっかけを創ります。 <http://dearme.a-i-t.net/>

### NPO法人アーツイニシアティヴウキョウ [AIT/エイト] について

現代アートと視覚文化を考えるための場作りを目的として、2001年に設立したNPO団体 (2002年法人化)。個人や企業、財団あるいは行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しさを伝え、それらの背景にある文化について話し合う場を、さまざまなプログラムをとおして創り出しています。 <http://www.a-i-t.net/ja/>

お問い合わせ (AIT): [otoiawase@a-i-t.net](mailto:otoiawase@a-i-t.net) Tel 03-5489-7277

このチラシのドローイングは、dear Meプロジェクトで子どものためのワークショップを行ったアニメーション作家、ひらのりょうさん (FOGHORN) が手がけました。大きな巨人の惑星には、さまざまなdear Meワークショップに参加してくれた子どもたちの作品が住人と散りばめられています。

